

牧小だより



心ゆたかに たくましく 生きぬく子

「心ゆたかに たくましく 生き抜く子」

校長 古川 正浩

4月15日のロング昼休みに、「なかよし班」(異年齢交流)で、1年生を迎える会が行われました。6年生が中心となって、会の進行や仲間づくり遊びなど、1年生の子が「学校って楽しい」「お兄さんやお姉さんと仲良くなれた」と言って楽しんでもらえるように、グループごとに考えを交流しながら計画・実施しました。2年生からは、一人一人に向けたメッセージを書いたキラキラの首飾りのプレゼントもありました。



学年が始まってわずかな時間でしたが、「一年生の大切な仲間が喜んでくれるといいな」「新しい仲よし班をうまくまとめていきたいな」と思いながら、自分たちで考え計画し、運営しました。一年生の子が嬉しそうに笑顔で走り回ったり、手を握り返してくれたりする姿を見ると「計画してよかった」「楽しんでくれてうれしい」という思いをもつことができました。

先生からの指示ではなく、自分たちで考え計画を実施した経験から「達成感」「充実感」「満足感」を味わうことができました。このような児童が主体となった活動を、今後も多く実施していきたいと考えています。

今学校では、学級組織や委員会活動など、集団の中における自分の役割を明確にし、具体的にどのように活動していくのかを考える時期です。自分の可能性を信じ、実際に行動し、人から認められることで、「自己肯定感」が高まり、「自信」をもつことにつながっていきます。ご家庭でも、お子さんの学校での頑張りに耳を傾け、「認め」「励まし」「価値づけて」いただけると幸いです。何卒ご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。



「安八豪雨災害」50年 命を守るための意識づくり

安八豪雨災害から50年の節目となる今年。自助(個人の備え)、共助(地域の助け合い)、公助(行政の支援)の三つの視点から「命を守る」ための意識作りを大切にすると考えています。過去の災害の教訓を生かし、児童一人一人が、命の大切さを理解し、牧の住人の一人として生きていくための知恵を身につけさせたいと考えています。

4月10日には、大垣中消防署よりご来校いただき、避難訓練の様子を見ていただきました。静かに慌てることなく避難ができたことを褒めていただきました。地震発生時の身の守り方も落ち着いて教師の指示に従い、正しく身を守る行動をすることができました。いつ何時災害が起こるかわかりませんので、身を守るための意識の向上と具体的な行動ができるよう今後も指導を徹底していきます。地域やご家庭でも、万が一の被災時の行動について、確認をしていただけますようお願いいたします。

